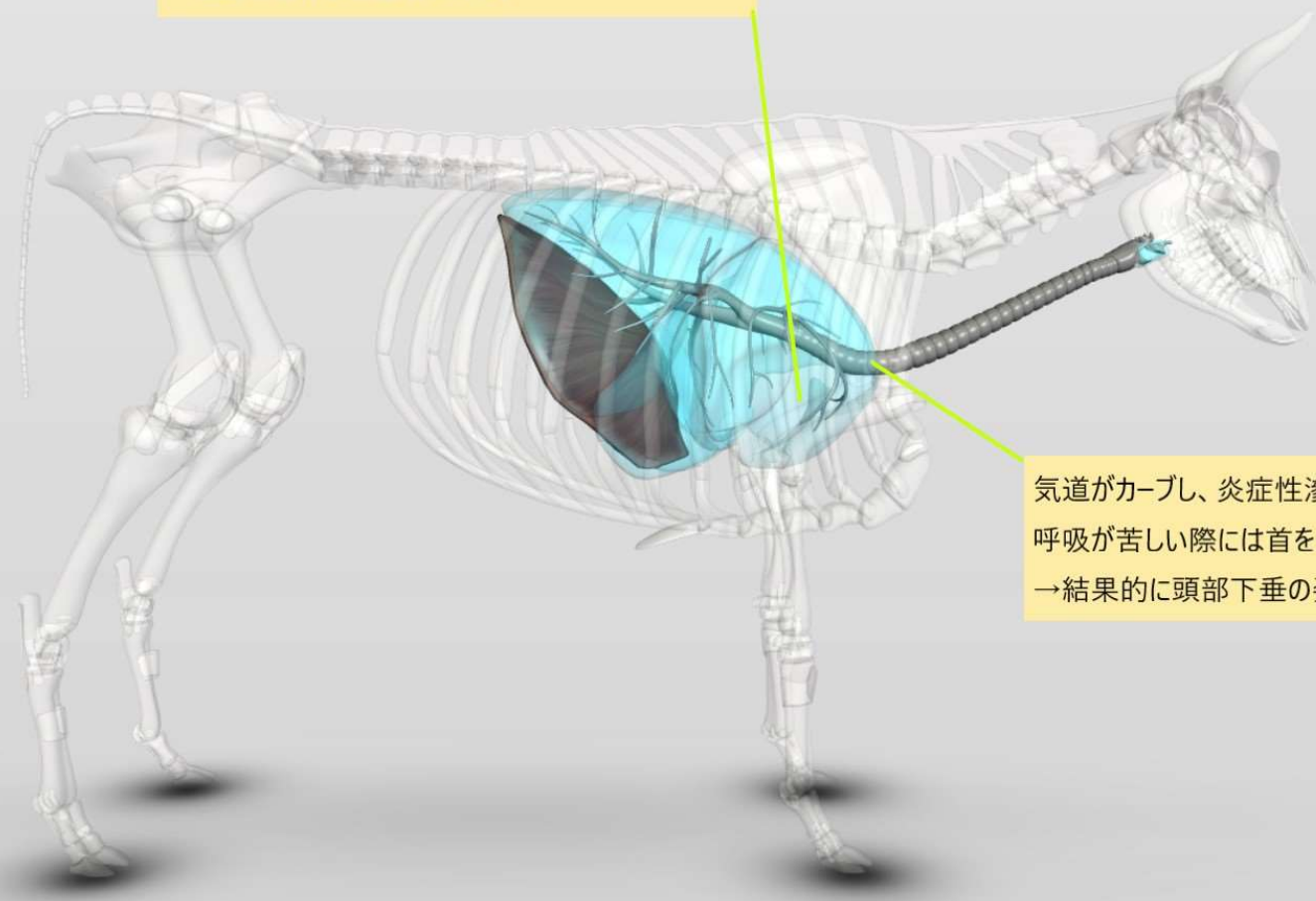


肺聴診のポイント

Guardian Co. Ltd.

右前葉が最も感染を受けやすく、肺炎となりやすい
→聴診における最重要ポイント



気道がカーブし、炎症性滲出物が貯留しやすい
呼吸が苦しい際には首を伸ばし直線にしようとする
→結果的に頭部下垂の姿勢となる



聴診のポイント

1、呼吸数

20~30回/分 （若齢子牛は多くなる）

早い→酸素が足りない→換気領域が狭い→炎症の存在（肺炎）

2、呼吸音の大きさ

呼吸音は空気と気道粘膜の摩擦音

- ・ 大きい→粘膜との摩擦が多い→粘液分泌増加→炎症の存在（肺炎）
- ・ 大きい→呼吸が大きい→酸素が足りない・・・

3、異常呼吸音

異常呼吸音は、粘液の分泌過多や、肺の炎症による器質的変化による

- ・ 「ピューピュー」：狭窄音、笛音→部分的に気道が狭い→粘液分泌増加、肺の腫脹・硬結
- ・ 「プチプチ」：捻髪音→気道が粘液で埋まり呼吸に合わせてはじける音
- ・ 「ゴリゴリ」：胸膜摩擦音→肺と胸膜がすれる音→胸膜肺炎
- ・ 「無音」：無気肺→肺がつぶれて空気が通っていない

4、呼吸音の高さ



- ・音が低い→肺広域に気道が狭い→腫脹と硬結が強い
- ・「シャーホー」：肺広域の器質的変化→慢性期
※比較的炎症としては治まっていることも

5、その他

努力性呼吸

- ・「ウッ・ウッ・」：間欠努力性呼吸→呼気に力を必要とする→末期状態

呼気膿臭

- ・化膿性肺炎の末期状態 肺断面から膿

頭部下垂・伸長

- ・肺痛、間歇努力性呼吸の一步手前 頭部を下に伸ばすと呼吸しやすくなる

鼻腔漏出物

- ・鼻腔、気道からの炎症産物の逆流 頭を下げるとぽたぽたと膿汁が落ちる
※気道にはカーブがあり炎症分泌物がたまりやすい

開口呼吸

- ・最終段階 死の直前 牛や馬は基本的に口呼吸をすることはない

肺炎のグレーディング



0 : 正常

正常音 正常呼吸数

1 + : 熱が出やすい 風邪をひきやすい 肺炎の始まり

呼吸音大きい やや呼吸促迫

2 + : 成長に問題が出る 肺炎

単一の異常音 呼吸促迫 頭部下垂

3 + : 生命の危機となり得る 重度肺炎

胸膜摩擦音 複数の異常音 シャーホー 体の揺れ

4 + : 近々死ぬ

間欠努力性呼吸 泡沫流涎 頭部の揺れ 開口呼吸

※流涎は換歯や口内炎と区別